

平成 27 年 12 月 19 日

北関東フォーラム

於：シムックス

## 中斎塾 北関東フォーラム

### 平成 27 年度第 11 回

先程の論語の素読は、氣合いが入っていて非常に良かったです。

以前、人前で講演をする場合には、古典落語を聞いて参考にすると良いとアドバイスを致しました。中村天風先生は気楽に話をされます。誰も分かるような言葉で、時々下ネタも入れながら講演をされているのですが、相当研究した節があります。古典落語をよく聞いて、その口調を自分の講演の中身に取り入れているのだなと感じます。そうすると一層人さまの心に届きます。

私は人前でお話をさせて戴く時には、笑顔で分かりやすい話をするよう心掛けています。特に最近は意識して柔らかくするようにしています。目の前であくびをされても、腹を立てなくなりました。昔と比べると大分変わったと言われます。若い頃は自分が正しいと思った事はズバズバ言っていましたから、弱点を突かれた人は面白くなかったろうと思います。一度刷り込まれた印象はなかなか変わりませんから、皆さんも注意をされるとよろしいでしょう。御参考までに申しました。

#### 「足るを知る」とは、食らないこと

先程理事長は挨拶の中で、「足るを知る」という話をされました。私は「足るを知る」については、ごく単純に自分の心の中で納得をしています。

今年 6 月、ローマ法王が気候変動によって地球が危機にあるという回勅を出しました。それによってキリスト教信者の間に世界的に激震が走ったという話を致しました。しかし、残念ながら日本のメディアはほとんど伝えませんでした。

9 月にベルリンで開かれた環境問題の会議でスピーチをさせて戴きました。その場は環境問題の専門家の集いでした。私が呼ばれた理由は、ここ十数年、環境問題の専門家が集まって議論をしたけれども全部停滞してしまっている。最終的に、「愛」と「魂」という問題になって、そこから先が止まってしまうそうです。そこで、木内孝顧問から「愛」と「魂」について、私の話を聞かせて欲しいと要請があったのです。

会議の席で私は、「この問題は日本人の立場から見ますと非常に簡単なことです。それは、外国人は理屈でものを考える、理屈を積み重ねて納得をする人種なのです。日本人は身体

で感じる民族です。理屈ではなく、体験をして情感で理解できる民族なので、ぜひ日本に来て出雲大社や伊勢神宮を見て下さい。そこで何かしら感じるものがあるはずです」と申しました。木内信胤先生が教わったハイエク先生が日本に来られ、木内先生が伊勢神宮にお連れした時、ハイエク先生が「木内さん、日本人のものの考え方がわかりました」とおっしゃったそうです。

更に、日本人のものの考え方を味わって戴くために、スピーチの中で詩吟を披露しました。西行法師の「なにごとの おはしますかは知らねども かたじけなさに涙こぼるる」という歌ですが、これは日本人は誰でも魂で感じる事が出来ます。通訳をしてくれた谷口副代表幹事は、この歌をきちんと韻を踏んで訳してくれました。

「愛」と「魂」について、木内顧問からは、第一人称で話をしてくださいと念押しされましたので、やむなく私はその場でこう話しました。魂について、「私は、魂はあると信じています。なぜならば一年前に娘を亡くし、続いて母親を亡くしました。娘の魂がすぐそばにいてくれるように感じています。ですから私は、魂は存在すると信じています。身内が亡くなった経験のある方は魂を感じる経験があるはずですし、感じなければいけない。これは理屈ではありません」と申しました。

愛については、三十数年前に亡くなった父親の事をお話しました。「父親が危篤で病院に駆けつけた時、ちょうど昼時でしたが、父は苦しい息の下で昼ご飯は食べて来たかと私に聞きました。自分のことはさて置いて、相手のことを氣遣う。これが日本人のものの考え方で、愛の始まりであると考えます。家族を愛することから人類愛へ昇華するのでしょう。身内の方が亡くなる、或いは臨終に立ち会う、生死の境を体験したかどうかによって感覚が変わります」と申しました。

そして「是非、日本に来て出雲大社や伊勢神宮を味わってください。出雲大社も伊勢神宮も遷宮をします。出雲大社は60年毎に新しい御社を建てて神様にお移り戴く。宮大工は一生に一度の仕事になりますから、お弟子さんに心を伝えていくわけです。伊勢神宮は20年に一度の式年遷宮で、技術の継承です」とお話ししました。

更に、日本は1万6千年の歴史を持つ民族で、国家という概念が考古学上変わってきたなら、おそらく日本が世界最古の文明国家と言われるようになるでしょう、といった話も付け加えました。

日本はそれだけの歴史と文化、伝統のある国家です。その中で生まれた「足るを知る」という考え方は、世界を救うものです。世界は今、行き詰っています。資本主義は終わり、お金で動く世の中は終わりです。このことは今や誰もが分かるようになりました。日本人

が持っている「足るを知る」「食らない」という心が、世界・人類を救うものの考え方だと私は思っています。

ですから「足るを知る」の説明は、最初に私が申しました凄く簡単な言葉に置き換えられます。それは「食らない」ということです。以前は、「ほどほどで満足する」と申し上げていましたが、人によってほどほどの基準が違いますから、「食らない」「食欲にならない」、この言葉が今、私の心の中にすっきり入っています。

### 陽明学のすすめ

本日ご紹介する本は、『陽明学のすすめVI 三島中洲』です。関係者や御縁のある方にお配りしましたので、あちらこちらから感想を戴いています。例えば、シムックス創業の頃に中小企業金融公庫の担当者だった方から戴いた手紙には、この本は三つ楽しむ方法が発見できたとありました。さらさらと読めたのが一つ。漢和辞典を引いて、意味を調べながら読んだのが二つ。三つ目は、漢詩を味わって読みたいと思ったそうです。先程、皆さんの御手許にもお配り致しました。どのようにお読み戴いても結構です。

タイトルの「陽明学」についてお話しておきましょう。論語を解釈する手法として、朱子学（机上の学問）が広がりました。中国はそれによって官僚制度を作り上げました。朱子学が形骸化した後に、陽明学が生まれました。陽明学は行動が主体です。行動が先、それから考えなさいという学問です。朱子学はひたすら考える、本を読む。分からないのは読み方が足りないからだと言われていました。王陽明はひたすら考えたけれども結論が出ないから、とにかく行動する、行動すれば何か良い智恵が入るから、それで考えよう・・・と、陽明学を打ち立てました。私は陽明学が自分で納得できるので陽明学を学び続けています。

ちなみに先日、ずっと気になっていた所に行って来ました。「変なホテル」という長崎ハウステンボスがつくったホテルです。ロボットだけで運営するホテルが出来るという新聞記事を見て気になっていましたが、テレビで宿泊が出来るようになったと放送されていたので早速行って来ました。

チェックインの際にはロボットが対応し、荷物もロボットが運んでくれます。部屋に入って、ロボットに「灯りをつけて」と話しかけると、照明をつけてくれます。照明と天気予報と時刻表等の質問には応えられるそうですが、難しい質問には対応できませんでした。

まだまだ開発途中ということでしたが、つくづく感じたのは、これから日本の社会は急激にロボット化が進むであろうということです。会社に戻ってからシムックスの役員たち

に、ロボット化をもっと進めるよう言いました。更に、高齢化社会を睨んで、高齢者と外国人を積極的に雇う動きを進めるよう話をしました。

ということで、氣になるものがあつたら即座に行動すること。これが陽明学です。行った後に考える。そうすると大概、プラス $\alpha$ が出て来ます。実際に私は長崎で立ち寄った坂本龍馬の記念館で、龍馬が企画して海援隊が出版した147年前の和英辞書を見つけました。「い・ろ・は・に・ほ・へ・と」や数字がローマ字で書いてあります。和英辞典の奔りですね。外国との貿易に役に立つように、数字は億の単位まで書いてあります。他にも、福濟寺には坂本龍馬と勝海舟が相撲をとったという史実が書かれていて、想像力を掻き立てられました。これもプラス $\alpha$ の収穫でした。

### 恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今年1年間で考えましょう。

- 今年1年、良い日が続いた方
- 今年1年、比較的嘘をつかなかつた方

比較的としましたので、手が挙げやすいでしょう。

○ 今年1年、当然有難うと言ったと思いますが、有難うと言われることが多かつた方  
年配になると、人さまから有難うと言われることが少なくなります。どうぞ意識して、何か人さまの為に差し上げると、有難うと返つて来ます。

- 今年1年間、よく健康法を実践した方  
皆さん手が挙がりました。素晴らしいですね。

- 昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

明日のことを過去形でイメージする具体例を一つご紹介します。昨日、猪瀬理事長と話をしていて、好きなものとか好きなことは何だろうという話題になりました。私は、食事・睡眠・仕事が好きですし、書くこと・読むこと・見ること・話すこと・知らないことを知ること・・・これら皆、好きです。よく、定年を迎えると、やりたい事がないものだから毎日どうやって時間を潰そうかという話を聞きますが、それは悲しい。やはり、やりたい事は沢山あつた方がよろしいですね。やりたい事が沢山あると、夜寝る時に、明日はこれをやるぞ！ とワクワクして眠りにつくことが出来ます。やりたい事が沢山あつてワクワクする。これは若さを保つ秘訣でもあります。

ちなみに私は最近、再来年の中齋塾フォーラム10周年記念式典で、お出で戴いた大勢の方々から有難うございますと挨拶をして、ああ良かったなあ・・・と過去形でイメージをして眠ることが多くなりました。

ということで、明日以降のことが達成できたと過去形でイメージしてワクワクして眠る。結果としてこれは、小金持ちにはなれるようです。

○ 今年1年間、自分磨きをした方

方法は何でも結構です。是非、自分磨きを続けて下さい。

### 今年の学びを振り返る

本年度最後のフォーラムですので、今年1年間のテーマを振り返ってみましょう。

1月は、「人は、その性格に合った事件にしか出会わない」というテーマでお話しました。大きな事件に出会ったとしても、それはその人の性格が呼び寄せている。自分の性格をよく知っておけば、必ずその性格にあった事件に出会うということです。これは城山三郎さんが、渋澤栄一を評価して書いたものです。

2月・3月・4月は、「人間社会の崩壊」として、医療制度が壊れる、食べ物がなくなる、お金がお金として機能しなくなる（金融危機）といった日本の国の危機について申しました。更に、5月は重税国家をとり上げました。歴史上から考えると、国が滅ぶ時は税金を沢山とる時です。イギリスが覇権国家でなくなった時は、何と90%の税金をかけました。日本も終戦直後は、富裕税といって9割がた税金をとりました。またそれが復活する恐れがあると感じます。日本は今、色々な制度がどんどん崩壊して、滅びる方向へ滅びる方向へ進んでいると思っています。

6月は、「科学者たちの認識」としてガイア理論をとりあげました。地球を一つの大きな生命体とみなし、それももう行き詰っているという話をしました。

7月は木内信胤先生が言われた「いつ日本の国がなくなっても、それは良からう」という言葉をとり上げました。これは唯識学です。木内先生は最後に予測学というものをしておられました。先生が「ベルリンの壁は無くなるよ」と言った3か月後に、現実になりました。我々もこれから日本の国がどのようになるであろうと予測して、予測が外れたら何故外れたのか、当たったら何故当たったのかを考えられるとよい、と申しました。

9月・10月・11月は、「倫理道徳心の欠落」「環境問題の行き詰まり」「道徳経済合一説」をとり上げました。これらをまとめると、日本人に道徳観が無くなった、道徳観が非常に薄くなったから今の日本はおかしくなっているということです。ですから倫理・道徳なるものをもう一度日本人が見直しするようになれば、復活する兆しがそこから生まれてくるであろうと考えます。

今月のテーマ「知足」は、自分の心の中に「貪らない心」を持つことです。周りから見て「あの人は知足の人だ」と言われるのは何か。それは、笑顔の人です。ニコニコしている

人は、大概満足しています。良い笑顔が出来る人は、知足の人だと思って載って結構です。

## 論語解説

本日の論語は憲問篇 15～17 です。

【一五】子曰く、臧武仲、防を以て後を為すことを魯に求む。君を要せずと曰うと雖も、吾は信ぜざるなり。

孔子が言うには、亡命した臧武仲が防に戻り、魯の国に自分の跡継ぎを立てたいと要求した。たとえ君子に強要していないと言っても、私は信用しない。

領土や城を盾にとって、自分の後継者を君子に要求するような人間の言うことは信用しない、と孔子が言っています。

「吾は信ぜざるなり」がポイントです。

【一六】子曰く、晋の文公は譎りて正しからず。齊の桓公は正しくして譎らず。

晋の文公と齊の桓公という二人の覇者（力づくで指導者になった）について孔子が評価しています。

晋の文公については、宮城谷昌光氏の小説『重耳』に詳しく書かれています。晋の文公（重耳）は後継者争いの陰謀に巻き込まれて 38 年間に亘って亡命し、62 歳の時にようやく国に戻って君子に即位しました。その後、わずかな期間で覇者になりました。

孔子が言うには、晋の文公は手練手管に長けていたが、正しい道ではなかった。

齊の桓公は真っ正直で一生懸命やるけれども、やり方がへただった。

実績をあげたのは晋の文公ですが、一番良いのは、正しい道を歩んで実績を残していくことです。そういう経営者がよろしいでしょうし、そういう方とお付き合いをしてゆくの  
がよろしいでしょう。

【一七】子路曰く、桓公 公子糾を殺す。召忽 之に死す。管仲は死せず。曰く、未だ仁ならざるかと。子曰く、桓公 諸侯を九合するに、兵車を以てせざるは、管仲の力なり。其の仁に如かんや。其の仁に如かんやと。

これは孔子と子路の問答で、暴れん坊の子路が先生に食ってかかったように聞いています。

子路が言いました。「斉の桓公が兄の公子糾を殺した時、付け人の召忽は殉死したけれど、管仲は死なずに桓公に仕えました。これは仁者とは言えませんよね。」

孔子が答えました。「桓公は九回諸侯を集めて会盟を開いたが、決して武力で従わせたのではなかった。これは管仲の仁徳である。管仲は本当に素晴らしい人物だ。」

### 棚卸しの習慣

私は今年いっぱいシムックスの代表取締役会長を辞任します。これからは意識的に1週間に2日は休みたいと思っています。それで資料整理をしたいと思って、既に始めています。私の資料整理の判断基準は、私が死んだ後にこの資料は必要かどうかを考えて、不要な資料は捨てます。ただし、死ぬまでに私がやりたい事が沢山ありますので、そのために必要なものは保留としてとっておきます。これが今の判断基準で、来年1年間で綺麗に片づけたいと思っています。更に再来年の判断基準は、保留した資料を見直して、もう一度読むものは残し、読まないと思ったものは処分する、というものです。皆さんもご自分の判断基準で資料整理をされるとよろしいでしょう。

資料整理と同時に、人のお付き合い、友人・知人の整理もした方がよろしいでしょう。年齢を重ねてくると、自分が会いたい人・話をしたい人には会う、会いたくない人には会わない、という基準がだんだんはっきりして来ました。

ということで私は、資料の棚卸し、人のお付き合いも棚卸し、それと世間の習慣、自分が普段当たり前に行っていることも棚卸しをしようと思っています。皆さんも1年に一度、そういう癖をつけると良ろしいのではないのでしょうか。

### 中斎塾フォーラム「学び」の系譜

初めての方もおられるので、我々の学びの系譜をお話します。我々が学んでいる学問は、佐藤一斎→山田方谷→三島中洲→山田斎濟（準）→那智惇斎（佐伝）→石川梅次郎へ伝えられ、私は石川梅次郎先生から学んで皆さんにお伝えしています。ですから正統派を継いでいる学問の仕方だと思ってください。

その中で私は、渋澤栄一先生の学問も取り入れていますし、安岡正篤先生の学問も取り入れています。安岡正篤先生は「平成」という元号を考案したと云われています。私が論語を解説する時には、宇野哲人先生と貝塚茂樹先生の論語の解説を見ますが、貝塚茂樹先生も宇野哲人先生の息子の宇野精一先生も元号の考案を委嘱されています。

ですから我々が学んでいる学問は、学問の世界でトップレベルにいる先生方とお付き合いをした、その集約をお話しているのだと思って下さい。日本で超一流と言われるような

先生方から聞いたものを吸収して、咀嚼してお伝えしています。

学者の定義は、難しいことを易しく言う学者は本物、難しいことを難しく言う学者は偽物です。私は難しいことをなるべく易しく言うように努力しています。ですから私の話を聞いて、そんなこと分かっていると思った先に、もうちょっと深いものがあるのではないかと考えて戴くと奥が見えてきます。

## 時事評論

残りの時間で時事評論を申します。

時事評論で申し上げることは3つです。自公連立政権の打つ手を是々非々で見ること。それには新聞が伝えるものは7割が嘘、3割が本当だと思ってよく見ていると、中身が見えてきます。2つ目は国債です。国債の動向をずっと追いかけていけば、日本が経済破綻を起こすのはいつ頃かが見えてきます。最後に自然災害です。近い将来、必ず大きな自然災害が起きて我々の生活に直結しますから、自給自足体制がとれるような対応をしておかなければいけません。

先月のフォーラムで干支の話を致しました。来年の干支「丙申」は、一見とても良さそうな年回りに見えますが、薄氷だと思って下さい。次から次に、日本の国がひっくり返るような怖い話がチラッと見えて引っ込む、そのくり返しになるでしょう。突如として、とんでもない状況になる場合もあります。その時は日本の国がひっくり返ると同時に、世界同時大恐慌が起きる。そういう状況が直前まで来ていると思っています。その時に我々はどうしたら良いか。くれぐれも自給自足が出来るようにしておくようにして下さい。自分の友人・知人、仲間同士で互いに助けあうことで生き延びられる。そういう輪を私は来年は広げたいと思っています。

以上で本日の講話を終了致します。有難うございました。